

主 文

本件抗告を棄却する。

理 由

本件抗告の趣意のうち，少年法３条１項３号イの「保護者の正当な監督に服しない性癖のあること」及びニの「自己又は他人の徳性を害する行為をする性癖のあること」が過度に広範であり，不明確であるとして規定違憲をいう点は，これらの規定が所論のように過度に広範であるとも，不明確であるともいえないから，所論は前提を欠き，その余は，憲法違反をいう点を含め，実質は単なる法令違反，事実誤認，処分不当の主張であって，少年法３５条１項の抗告理由に当たらない。

よって，同法３５条２項，３３条１項により，裁判官全員一致の意見で，主文のとおり決定する。

(裁判長裁判官 古田佑紀 裁判官 津野 修 裁判官 今井 功 裁判官  
中川了滋)